

## はじめに

平成19年度まで国土館大学文学部地理学教室の所有であった「岩石標本」は、重要性を認識されていた野口泰生教授によって、ご自宅の納屋に保管されていました。先生は、岩石標本の地質学的価値がどのようなものであるか、埼玉県立自然の博物館へご質問されました。そこで博物館は平成20年度に一部の調査を行い、明治から昭和戦前にかけて活躍した風景地質学者「脇水鐵五郎」に関連した標本を含むことを指摘しました。しかし、岩石標本の数が膨大で擾乱を受けていること、また日本の「地質学史」を専門とする学芸職員がいないため、岩石標本の全体像を把握するには至りませんでした。当時調査に加えていただいた田口は、たまたま先生のご実家に近く、ボランティアの福島美和氏の協力を受けて独自の調査を続けることができました。その概要を以下に紹介させていただきます。

## 岩石標本の全体像

### 1 標本筆筒と標本棚

岩石標本は、明治から昭和期の木製標本筆筒32棹、総棚数426棚に、当時の日本各地及び海外の地質標本が、後世の擾乱を受けた状態で収納されていました（写真1）。岩石標本が最も多く目立つため「岩石標本」と総称されてきたようですが、鉱物・化石・現生貝類標本等も含まれています。調査はまず、筆筒の配置図を作り棚の状況を確認しました。各棚の内容を表示した紙片や白墨の仮番号が残る場合はそれを記述し、次に標本の有無・棚底に敷く古紙の有無・土埃積の有無について確認しました。



写真1 岩石標本を収納する標本筆筒（野口家納屋にて）

### 2 標本棚の下敷古紙

標本棚の下敷古紙は、1棚に1枚程度敷かれています。調査の結果、426棚のうち計287棚に下敷古紙が存在し、日付は昭和34年5月27日から昭和35年6月29日にわたり、その大部分が昭和35年5・6月に集中していることが判明しました。媒体別では「アカハタ」が129棚と最も多く、「日本経済新聞」56棚、「朝日新聞」48棚、「中央日報」20棚、「松川通信」13棚、「日刊スポーツ」7棚、「東京タイムズ」4棚、「生協ニュース 家庭版」3棚、「東京中日新聞」2棚、「平和ふじん新聞」2棚、「産経新聞」1棚、その他漢和辞典印刷物が2棚でした。

### 3 地質標本の形態

標本の形態は様々ですが、ラベルについては、初生的な「第一次ラベル」と後に整理再記述された東京大学農学部時代の「第二次ラベル」がセットで残る傾向です。今回は、ラベルを尊重して「1標本1点」と数え、分解できない化石・鉱物標本は個数を別にしました。その結果、ラベルの存在しない一部の資料を加えて、総計3256点の標本を識別しました。このうち標本小箱は2745点と最も多い形態でした。これはに大小各種のサイズがみられ、木製骨組・表面が紙製であることが共通しています。その他の紙製小箱は4点、木箱5点、ガラス蓋付き小箱118点、ガラス製管ビン198点、ガラスビン2点、金属製円筒缶133点、布袋51点でした。

## 4 標本ラベルの種類

総計3256点の標本のうち、初生的な「第一次ラベル」には、標本ラベル25種1965点、諸機関用紙6種18点、荷札各種65点、紙片各種612点、布片9点、木片7点を識別しましたが、その他の形態として資料や小箱に直接書付けたものもありました。記録が複数の媒体に及ぶ場合は、資料性の高いものを採用しました。また、初生的な記録が失われ「第二次ラベル」のみである標本もありました。これらのうち重要とみられる、帰属が明記された印刷物の「第一次ラベル」18種1281点、諸機関用紙は6種18点について、採集年月が記述された期間を含めて示すと、表1（本文の最後に掲載）のようになります。

標本ラベルのうち、「東京山林学校」は本来の使用ではなく、裏面に筆で略号を記述しています。「Geological Institute, Imperial University, Tokyo.」「Geol. Inst. Imp. Univ., Tokyo」は帝国大学、「Geological Laboratory, College of Agriculture, Tokyo Imperial University.」「Geol. Laboratory, Coll. of Agriculture, Tokyo Imp. Univ.」は東京帝国大学農科大学、「COLLEGE OF ENGINEERING, TOKYO.」は東京帝国大学工科大学、「Tohoku Imperial University, Geological Institute Sendai, Japan.」は東北帝国大学、「Dr.F.Krantz Rheinisches Mineralien-Contor Bonn.」はドイツのクランツ標本、「CONGRÈS GÉOLOGIQUE INTERNATIONAL, SUÈDE, 1910.」は明治43年、スウェーデンのストックホルムで開催された第11回万国地質学会議を示しています。

## 5 採集年月日と地域

採集した年及び年月日が記述された標本は1300点を数えました。最も古い採集年月日は1892(明治25)年8月30日、最も新しい採集年月日は1973(昭和48)年8月28日であり、約81年間にわたります。しかしこの間、1941(昭和16)年10月31日から1966(昭和41)年10月までの約25年間は記録がみられず、年代的に標本群は二分されることがわかりました。両標本群の中で細かくみると、前半49年間では1898(明治31)年・1900(明治33)年・1902(明治35)年・1927(昭和2)年・1929(昭和4)年・1930(昭和5)年・1936(昭和11)年、後半7年間では1972(昭和47)年が存在しないものの、両者はそれぞれ概ね連続的に年号を刻んでいました。採集年ごとの標本点数や採集地域を示すと、表2（本文の最後に掲載）のようになります。

## 6 採集者と採集時期

採集者名が記述された標本は723点を数えました。採集者名は漢字・ローマ字表記の他、押印がみられました。同一人物であっても、標記方法は省略形を含めて複数みられる場合もありましたが、計110名を識別することができました。最も多い採集者はT.W.(脇水鐵五郎)の215点であり、Yamamoto(山本)110点、S.Yamaguchi(山口俊策)58点、Toyoshima(豊島)26点と続きます。また、1点限りの採集者は、半数以上の61名にのびりました。これらのうち、採集時期も記述された標本を調べると、110名のうち74名の採集者にみられました。採集者ごとの標本点数と採集した時期を示すと表3（本文の最後に掲載）のようになります。また、荷札には人名を記述したものがみられました。「石川県立羽咋中学校 安田作次郎」が送り主である荷札には、宛先が「東京市本郷区弥生町 東京帝國大學農學部 地質學教室 脇水鐵五郎殿」と明記されていました(写真2)。



写真2 標本筆筒に残されていた「脇水鐵五郎」宛の荷札

## 考 察

岩石標本は1892(明治25)年8月30日から1941(昭和16)年10月31日までの前半49年間と、約25年間の空白期間を置いて1966年10月から1973(昭和48)年8月28日までの後半7年間とに大別されます。両標本群の存在は、岩石標本の所蔵・帰属を示すと考えられます。つまり前半が「帝国大学」・「東京帝国大学」、後半が「国士舘大学」です。二次ラベルの帰属は「東京大学農学部」であり、標本棚の底に敷かれた下敷古紙は昭和34年5月27日から昭和35年6月29日の各種古新聞等が使用され、期間に偏りがみられました。このことは、戦後東京大学農学部の昭和34・35年に、岩石標本はある程度集中して整理が行われたものと考えられます。しかし、すでに標本が失われていた標本棚はどうでしょうか。下敷古紙が敷かれることなく、土埃が堆積し続けたと思われる。たとえば前面表示の「元素類」「硫化物」等の鉱物標本や、「赤坂石灰岩」「化石」「貝類」等の化石標本や現生比較標本はその典型であり、早い時期に殆どが他の研究者に渡ったり、散逸して失われていたとみられます。河北省産の非海棲貝類資料については、「脇水博士の採集品を柴田氏の好意によって提供されたもの」と明記された論文もあり、こうした状況を示唆しています。反対に、地味な岩石土壌標本などは散逸を免れて、現在に至ったものと思われるのです。

岩石標本を主体とする帝国大学・東京帝国大学時代の標本群は49年間のうち、明治期に3ヶ年・昭和期に4ヶ年の標本が存在しない年がありますが、全体的に採集年が連続していて「一連の標本母体」とみなされます。さらに、採集者名の最も多い人物が「脇水鐵五郎」であり、荷札の宛先に脇水鐵五郎を示すものが存在することから、標本群の帰属を脇水鐵五郎に特定することができます(写真3、4)。また、1914(大正3)年12月に集中する学生採集の岩石標本ですが、これらは脇水鐵五郎が欧米留学直後、精力的に学生を指導し現地に赴いた際の証拠標本とみなされます。



写真3 脇水鐵五郎採取の岩石標本



写真4 小笠原母島採取の化石標本(貨幣石)

脇水鐵五郎に帰属を特定できる岩石標本をもう少し細かくみると、帝国大学の卒業論文証拠資料である1892(明治25)年8月30日の陸前大島標本に始まり、晩年の1940年7月の石川県地方標本まで計193点にその採集時期を知ることができます。また、採集者名がなくても状況から脇水鐵五郎の採集標本とみられる場合があり、ほぼ生涯を通じての標本群であるといえます。ただし、柴田秀賢教授退官記念会によれば、東京帝国大学農学部で講師を務めた柴田秀賢が、昭和15年7月から東亜研究所の嘱託となり、同所の依頼を受けて黄土の洗滌分析を行なっています。そのため、東亜研究所「黄土調査第三部會」のラベルをもつガラス製管瓶標本等は、柴田秀賢の分析資料であるとみられます。柴田は後年、脇水鐵五郎について「学生指導方面には大いに功績があって」と評価し、「昭和3年3月退官された後名誉教授として毎日教室に出られて研究を続けられ・・・」と当時の状況を述べています。脇水鐵五郎が退官した後も、東京帝国大学に帰属を特定できるラベルが1940年(昭和15)6月までみられる事実は、これを裏づけるものと考えられます。

一方、後半の国士舘大学時代の標本群は1972(昭和47)年のみ存在しませんが、1966(昭和41)年10月から1973(昭和48)年8月28日までの約7年間にわたり、こちらも同様に「一連の標本母体」とみなされます。採集者名の最も多い人物は「山口俊策」58点でした。また2点ですが「富田」の記名や宛名封筒も確認されました(写真5、6)。

国士舘大学文学部創設三十年史の中で野口教授は、国士舘大学文学部に地理学専攻が開設されたのは1966(昭和

41)年であり、開設後間もなく東京大学農学部から4200点の岩石標本を譲り受けたと述べています。専任教職員は内田寛一・富田芳郎・大橋与一・山本正一・山口俊策の5名で、山口俊策は地学や生物地理学を担当し、1969(昭和44)年度に初等教育専攻へ転任後も1979(昭和54)年まで地理学専攻と関わりがあったそうです。従って、多数の山口俊策採集の岩石標本や1967(昭和42)年7月と8月に集中する学生採集の岩石標本は、国士館大学地理学専攻開設黎明期における、実習や野外巡検の証拠標本とみなされます(写真7, 8)。これは、国士館大学にとって、大学の歴史に関わる貴重な財産ではないでしょうか。さらに細かく岩石標本をみると、学生独自の岩石標本の産地が日本各地にわたっていることに気づきます。これは、脇水鐵五郎に帰属を特定できる岩石標本が示す広大な採集地域というもの、当時の国士館大学の教官や学生に少なからず影響を与えたようにみえます。特に地質学の受講が必修であった初期においては、地理学専攻開設の環境醸成として授受した東京大学農学部からの標本群が、教材として有意義に活用されたものと思われる。そういえば調査の初期に、標本棚に残された手書きの岩石一覧表を発見しました。「1977.11.30. 終了.K.Chiba」のメモです。これは、文学部地理学専攻開設10年後にあたりますが、脇水鐵五郎岩石標本を教材にした、国士館大学における学生の課題学習や資料整理の一環を物語っているように思われてなりません。

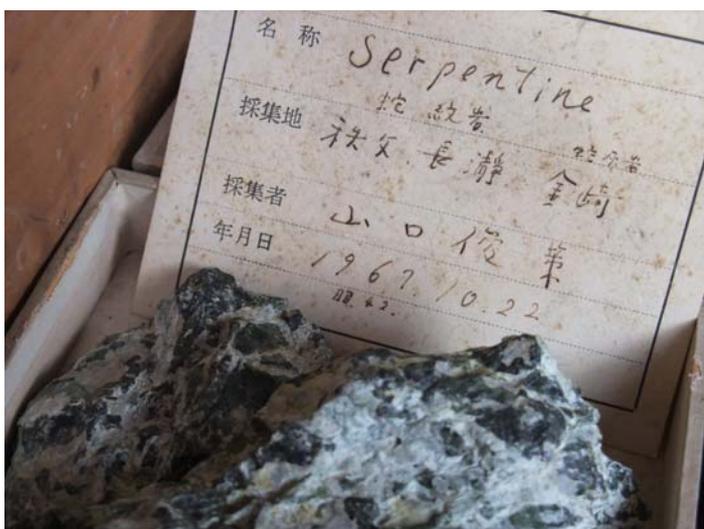


写真5 「山口俊策」採取の岩石標本

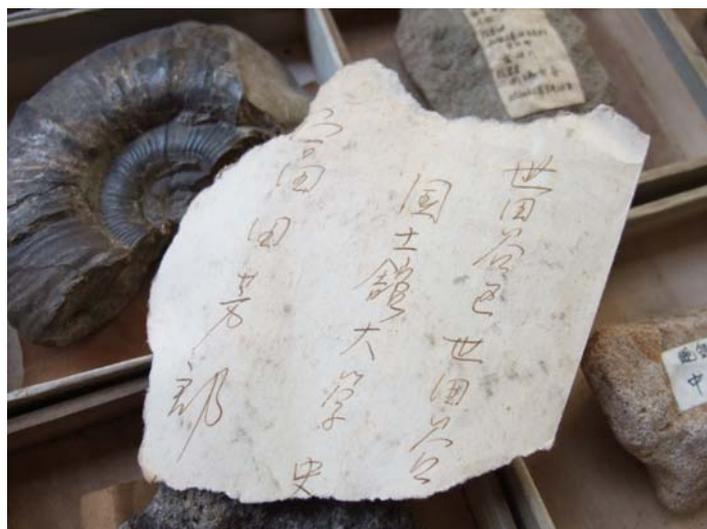


写真6 「富田芳郎」宛の封書片



写真7 国士館大学学生採取の岩石標本(溶岩)



写真8 国士館大学学生採取の岩石標本

## おわりに

かつて国士館大学文学部地理学教室の所有であった「岩石標本」は、脇水鐵五郎に帰属を特定できる標本群を主体とし、それを教材とした国士館大学の岩石標本を伴っていました。こうした貴重な岩石標本の重要性を早くから

認識されて今日まで守り抜き、調査や公表の機会を与えられた野口泰生教授に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 参 考

脇水鐵五郎(わきみずてつごろう)、1867年現在の岐阜県大垣市生まれ。明治26年7月帝国大学理科大学を卒業、農科大学講師となり地質学・土壌学を担当し、東京帝国大学教授と駒沢大学教授等を歴任した地質学者。昭和17年8月、駒沢大学在職のまま亡くなった。美しい日本風景の調査を行い、名勝・天然記念物や国立公園等の指定に努力した。昭和14年には、日本地質学会の会長を務めている。学会誌論説の他、鉱物や地理分野の教科書を多数執筆している。現在、「お茶の水女子大学デジタルアーカイブス」に44歳当時の肖像が公開されている。

## 文 献

- 野口泰生, 1996. 国土館大学文学部創設三十年史. 127-151. 国土館大学文学部.  
楡井 尊・田口聡史・小林まさ代, 2008. 国土館大学が所蔵していた東京帝国大学収集の地質標本について.  
日本地質学会第115年学術大会 講演要旨. 162.  
田口聡史・福島美和, 2009. 脇水鐵五郎の帝国大学卒論, 「陸前大島」岩石標本の発見.  
埼玉県立自然の博物館研究報告.(3): 41-48.

## 付 記

- 田口聡史：1960年、東京都板橋区生まれ、埼玉県在住  
1986年、東京学芸大学大学院修了、修論は地質、関東山地東縁の下部白亜系  
埼玉県高等学校教諭（理科、地学）となる  
1999年、埼玉県立自然史・自然の博物館に異動、主査・担当課長となる  
2010年、埼玉県高等学校教諭（理科、地学）に戻り、現在に至る

2011年4月

=====  
岩石標本は、鶴川キャンパス（現在の町田キャンパス9号館（その後はキャンパス内のプレハブ校舎（現在は取り壊し））に保管されていました。しかし、文学部の世田谷キャンパスへの統合に際し保管場所を確保することができずやむなく廃棄処分となりました。しかし、この標本の価値を高く評価していた野口泰生教授の機転で一時的に埼玉県飯能市にある野口家の納屋に保管できることになりました。その後、本文にあるとおり埼玉県立自然史・自然の博物館の先生方により、岩石標本の全容が明らかにされることとなりました。

帰属明記のラベル・用紙	点数	期 間
Geological Institute, Imperial University, Tokyo.	76	1892/8/30~1896/8/7
Geological Institute, Imperial University, Tokyo. 赤	2	1892/12/4~1892/12/8
Geol. Inst., Imp. Univ., Tokyo	10	
Geological Laboratory, College of Agriculture, Tokyo Imperial University	948	1896/8/7~1940/6
Geol. Laboratory, Coll. of Agriculture, Tokyo Imp. Univ.	101	1905/10~1937/9/13
COLLEGE OF ENGINEERING, TOKYO.	11	1906/7/30
Tohoku Imperial University. Geological Institute Sendai, Japan.	67	1915/7~1916/5/1
MICHIO KAWADA	4	
Dr.F.Krantz Rheinisches Mineralien-Contor Bonn.	2	
CONGRÈS GÉOLOGIQUE INTERNATIONAL. SUÈDE, 1910.	14	1910/8/22~1910/9/2
鹿兒島高等農林學校	4	
東京高等農林學校	1	
東京山林學校	6	1899/10/1~1899/10/17
農商務省農事試験場	5	1905/5/18~1905/5/28
農商務省肥料礦物調査所	7	1903/9
東京帝國大學農科大學農藝化學科	3	
東亞研究所 黄土調査第三部會	16	1941/8/21
東京三省堂標本部	4	
東京帝國大學農科大學用紙	7	1918/12/31~1919/1/1
東京帝國大學農学部需要品目用紙	1	
小笠原島庁役所用紙	4	
静岡県役所用紙	1	
台湾總督府役所用紙	1	
富山房百科事典用箋	4	1940/10/17

表1 帰属が明記された標本・用紙一覧

採集年	点数	採集地域	採集時期	採集年	点数	採集地域	採集時期
1892(明治25)	15	陸前大島	8/30~12/12	1917(大正6)	47	紀伊有田郡湯淺・門前 東京府豊多摩郡・江原郡 越後北蒲原郡・筒石線 埼玉県飯能町 摂津有馬郡 駿河江ノ浦・伊豆多摩郡 摂津六甲山・山口村・大沢村	1/1, 1/2 5/ 7/19, 7/23 11/ 12/ 12/20 12/29, 12/30
1893(明治26)	2	箱根芦ノ湖	8/13	1918(大正7)	141	遠江浜名湖 駿河由比町 富士山西麓・駿東静浦・伊豆天城山・伊豆多摩郡 安房豊浦村・額山町・嶺岡 東京府江原郡 埼玉県北足立郡 東京府豊多摩郡 東京府江原郡 千葉県市原市 下野足尾銅山 下総銚子半島 伊豆八丈島・小笠原母島	1/1, 1/5 1/8 3/31~4/5 4/22~4/24 5/2 5/5 5/8 5/9, 5/26 6/23 11/20 11/26 12/17, 12/18 12/24~12/31
1894(明治27)	2	日光・裏見	8/13	1919(大正8)	15	下総成田鉄道 栃木県日光町	4/ 8/25
1895(明治28)	6	伊豆湯ヶ島・修善寺・堂ヶ島	8/4~8/9	1920(大正9)	36	銚子半島 台湾台南庁・打狗停車場 埼玉県・桃園台地	1/10, 1/11 3/16 5/18
1896(明治29)	25	下野鬼怒川・塩原・野州川谷温泉 阿波三好郡吉野川沿岸 伊予釣島	7/10~7/12 8/7~8/9 8/17~8/19	1921(大正10)	23	寒三目山トンネル・丹那トンネル東口・丹那山頂 北海道二世湯泉 香川県白鳥町・綿島	3/22~3/25 8/9/ 11/
1897(明治30)	35	野州塩野郡磐城菊多郡・下松川 北海道釧路別荘・夕張炭山・嶺内炭山・後志然別館山・神居古潭 駒場新築地・農業化学教室建築地 伊豆下田・大室山・蓮台寺村・小杉原峠	7/11~7/13 8/6~8/13 11/30 12/26~12/3	1922(大正11)	6	北海道豊平町 香川県善通寺 宮崎県青島	2/7 4/ 5/22
1899(明治32)	23	三河 設楽郡・乳岩川・上津具古町 父島 加賀白山 伊豆八丈島	7/13~7/20 8/12 8/12~8/13 10/1~10/17	1923(大正12)	19	大府雲崗 大連寺・二十里台・撫順・ハルビン	3/11 4/13~5/14
1901(明治34)	1	上総勝浦	5/18	1924(大正13)	1	千葉演習林	11/
1903(明治36)	7	燗釜・新潟・長野・秋田・石川・東京	9/	1925(大正14)	12	安房菅呂村・札郷宿舎・郷田倉・龜山村黄和田畑 銚子半島・夫婦鼻	4/4~4/23 11/4
1904(明治37)	17	三重県志摩郡加茂村 高知県長岡郡・安芸郡 小笠原	2/25 3/3~3/11 6/	1926(大正15)	18	平村相山 銚子半島高神村・犬吠岬	10/29 12/22, 12/23
1905(明治38)	19	小笠原中硫黄島 房総鴨川 八丈・北硫黄島・中硫黄島・父島 安房勝山	5/15~5/28 6/6~6/18 10/	1928(昭和3)	3	秋田県仙北郡	7/29
1906(明治39)	62	加賀金平館山 安房小湊・千葉演習林 沖繩本島・久米島・渡嘉敷島 相州三浦郡・伊豆修善寺・駿河駿遠郡	9/7, 11/12 5/13~5/23 7/30~8/18 12/26~12/31	1931(昭和6)	1	アリュージョン	6/
1907(明治40)	65	清国海南島 武蔵寄居 安房磯岡・金車 越前大野郡大尾館山 上総龜山村黄和田・安房鴨川 武蔵株父郡源沢・上州伊香保 和歌山湯浅 箱根火山・湯河原・伊東天城山・賀茂郡	3/ 4/ 4/ 4/ 5/11~5/15 7/ 8/24 12/16~12/30	1932(昭和7)	23	耶馬溪 彦山	6/
1908(明治41)	21	三河風来寺山 奉天省通化縣鉄 遠江天龍川・太田川 伊妻郡留郡・大月猿橋	7/	1933(昭和8)	69	耶馬溪・森町・相ノ迫・青野山・宝山・大岩崩山・万年山・木之岳	4/
1909(明治42)	17	ドイツ ハイエルン オーストリア ドイツ バーデン 美濃隕石 石膏模型 ドイツ ライン地方	4/6, 4/7 5/2 5/16 5/29 7/24 9/28	1934(昭和9)	45	伊妻巨摩郡 本耶馬溪・耶馬溪・奥耶馬溪・裏耶馬溪・明治村・日出台・西稚屋 辛莊子	2/ 4/ 7/12
1910(明治43)	51	暹羅省・海城省 越中水郡熊無村 スウェーデン ストックホルム 吉林省 常陸・日立村 安房勝山・館山 吉林省・鳳凰	1/22, 1/24 3/9 8/22~9/2 9/25~10/18 11/ 12/22~12/27 12/5~12/19	1935(昭和10)	1	長野県青木湖	7/12
1911(明治44)	18	伊太利 ビサ 千葉演習林・鶴岡山 旅順・本溪湖・長興島 硫黄島 遠江女神山	4/9 5/21 6/2~6/30 7/ 12/	1937(昭和12)	17	長野県小県郡 群馬県碓氷・高崎 新潟県三島郡・北妻郡 群馬県湯浅曾・土合 山梨県北都留郡	7/9, 7/10 7/12, 9/13 9/14 7/9
1912(明治45) (大正元)	22	遠江奥田川・駿河志太郡 本溪湖・安東縣 香港 ドイツ フェルステンワルテ 巨張峯	3/	1938(昭和13)	15	山梨県北都留郡 長野県上諏訪・小谷栗馬・青木湖・木崎湖 新潟県西頸城郡 富山県下新川郡	7/12 7/12 7/12, 7/13
1913(大正2)	43	ドイツ ベルリン・ヘッセン イタリヤ ベスヴィアス火山・ポンペイ・レノバリー ドイツ ベルリン・グランワート スイス アルトゴウダル・チューリッヒ・フィアヴァルトシュタット湖 シュヴァンデン・グリンデルヴァルト・ゴルナーグラート・ツェルマット ドイツ フェルステンワルテ 駿河安倍美和村・志太郡	1/1, 4/ 4/4~4/21 5/ 8/29~9/6 11/17 12/	1939(昭和14)	18	岩手県二戸郡浪打村・石切所村・九戸郡江刈村 山形県西玉置郡小国・新潟県赤谷村 新潟県西頸城郡	5/22, 5/23 7/12
1914(大正3)	86	新硫黄島・枝島 新島 ドイツ ハイエルン 駿河安倍郡・遠江女神山・静岡志太郡・高草山・遠江上倉真 上総養老川・安房豊浦・伊豆賀茂郡 大井川・駿河志太郡・遠江金谷町・駿河庵原郡	1/ 2/ 5/ 12/ 12/ 12/24~12/30	1940(昭和15)	17	岩手県九戸郡江刈村 土和田水電工事 石川県羽咋郡・鹿島郡・金沢市 岩手県二戸郡石切所村	6/ 6/ 7/ 10/17
1915(大正4)	44	千葉演習林 遠江國佐野郡・駿河志太郡・静岡安倍 サイパン・カロリン島 ヤップ島・カロリン島・パナップ島・ツループ島・オオガル島 武蔵株父郡 伊豆天城山	5/	1941(昭和16)	33	上総・砂見・真根・四方木・黒瀧・清澄・安野・仙石・白岩・黄和田 大谷鳳凰山 大嶽号	8/21 10/31 10/
1916(大正5)	44	伊豆賀茂郡 安房菅呂村・鴨川町・下総銚子半島・成田不動尊 越後寺海 関東縣大連 上野水川村 紀伊有田郡島屋城 紀伊湯浅町	1/1 4/27~5/1 8/ 10/ 12/ 12/29 12/31	1966(昭和41)	1	奥只見川	10/
				1967(昭和42)	53	浅間山・那須山・富士山・江ノ島・北海道・岩手県・山形県・新潟県・ 長野県・群馬県・和歌山県・広島県・山口県・香川県・愛媛県・沖縄県 阿蘇山 秩父長瀬 猪苗代湖・栃木県とどろき溪谷	6/4~8/29 11/2~11/21 5/31~6/6
				1968(昭和43)	34	相模湖・紫梯山・五色沼・岩手県 伊豆大島 北海道サロマ湖・知床・阿寒 秩父長瀬	7/11~7/17 8/6~8/8 11/27
				1969(昭和44)	12	福島県 富士山・山中湖 小名浜・地切温泉 金華山・牡鹿半島・鳥帽子山	2/ 6/20 7/10~7/14 8/
				1970(昭和45)	7	長野県下諏訪・八島高原・浅間山	7/11~7/29
				1971(昭和46)	5	富伊豆 会津若松東山温泉	7/13 8/27, 8/28
				1973(昭和48)	3	村上市	8/27, 8/28

表2 採取年が明記された標本の採取地一覧

氏名	点数	採集時期
T.W.(脇水)・押印	215	1892/8/30~1940/7
Kanno	9	1899/8/12
鈴木	4	1905/5/18, 5/28
Koehi	1	1906/6/
Hasimoto・Kobayasi	1	1906/8/
T.Matsui	7	1907/, 1921/9/
Kiyomitsu Ryu	3	1907/12/18~28
Kakuichi	1	1908/
Kawase	1	1908/
Sugiura	1	1908/
K.Maruyama	3	1908/7/
Takasu	1	1913/12/
Tange	1	1913/12/
T.H.	2	1913/4/
Hayashi	1	1914/12/
Ichikawa	1	1914/12/
Kato	1	1914/12/
Kitamura. R 農1第13班	15	1914/12/
Kuto	2	1914/12/
Mori.Agr.	2	1914/12/
Morisawa.Agr.	4	1914/12/
Nisitami	1	1914/12/
Shibata	1	1914/12/
Suchi.Agr.	1	1914/12/
Tamachi.Agr.	2	1914/12/
Uda	2	1914/12/
Yahagi	1	1914/12/
Ogawa	3	1914/12/, 1915
Kamimura.Agr.	3	1914/12/24
田口教一	1	1914/12/26, 27
Toyoshima(豊島)	26	1914/2/, 1918/12/
Tazaki	5	1915/
S.Okuda	13	1915/5/
S.Kusano(草野)	9	1915/8, 1919/9/18, 10/21
Hotta	1	1915/8/
Murakami(村上)	2	1916/10/
Masaki	1	1916/10/
伊藤武夫	1	1916/4/
Takashi	1	1917/5/
Miyata(宮田)	6	1918/
永崎小太郎	1	1922/4/
Yamamoto(山本)	110	1932/~1934/2/
林尾衛藤	1	1932/6/
H.Shibata	2	1934/4/
Toba(鳥羽)	3	1939/
M.Ogasawara(小笠原)	2	1940/6/
江刈小学校長三浦春雄	5	1940/6/
S.yamaguchi(山口俊策)	58	1966/10/~1973/8/28
山口恭子	1	1967/
横田	1	1967/11/2
藤田祐	7	1967/11/2~1968/6/6
山口文芳	1	1967/6/4
幸田豊	1	1967/7/
竹浪正顕	1	1967/7/15
岡嶋秀喜	1	1967/7/20
藤井博昭	1	1967/7/26
木下昭	1	1967/7/28
佐久間茂美	1	1967/8/
千葉泰男	2	1967/8/1
五島宗二郎	1	1967/8/10
大森政美	3	1967/8/14
黒崎有一	2	1967/8/14
新田真人	1	1967/8/15
岡田安正	1	1967/8/15
辻村典幸	1	1967/8/15
岡田良充	11	1967/8/17, 8/20
後藤肘代	1	1967/8/18
井出千章	1	1967/8/22
吉田規正	1	1967/8/24
和田茂樹	1	1967/8/26
石井モトエ	1	1967/8/28
岩崎喜之	3	1967/8/29
鳥羽博之	1	1967/8/5
山口さとし	1	1971/7/

氏名(採集時期の記述なし)	点数
内藤	19
Y.S.	17
Z.Mori	16
高橋八班	14
Saheki(佐伯・近藤信興)	12
佐々木武彦	10
三浦	5
Y.Mimuroto	4
山津敬治	4
T.Miyoshi	3
小原真	3
Asada	2
河田	2
篠田	2
清水潤一	2
富田	2
K.Kudo	1
S.S	1
池田聡	1
石井善子	1
海南大三郎	1
菊野登夫	1
木場健蔵	1
小林晃	1
笹野道雄	1
高橋豊	1
田端	1
築館	1
内海	1
中瀬康隆	1
平塚	1
藤田敏規	1
望月	1
山田	1
山本宣昭	1
渡辺為吉	1

表3 採取者が明記された標本の採取時期一覧